

新型コロナウイルス・パンデミックによって 気づいたこと

山中克郎

福島県立医科大学 会津医療センター 総合内科

名 古屋に住む家族と1年10カ月ぶりに再会した。2歳の孫娘が

とても大きく成長していて驚いた。最初はこわがって近づいてこようとしなかったが、しばらくすると近くに寄ってきた。小さな人差し指を左右に動か

し、母親のスマホを器用に操作している。生まれた時からインターネットが身近にある「デジタルネイティブ世代」なのだ。

新型コロナウイルス感染症によって、今まで当たり前前と思っていた生活が、実は非常に価値があったことに気がついた。家族との再会はとても嬉しい。そうか、こんな家に住んでいたのだったな。妻が作る家庭料理は最高だ。ご馳走が並ぶわけではないのに、家族と食べる食事は一人で食べる夕食とは比較にならないほどおいしい。

戒厳令のような、この生活はいつまで続くのであろうか。

国際連合は、2050年には都市部人口が68%となり、1,000万人以上が暮らす「メガシティ」が世界中で次々に誕生すると予想している (https://www.jircas.go.jp/ja/program/program_d/blog/20180523)。すでに飛行機で世界中のどこにでも簡単にに行ける時代となっている。大都市に住む人々の移動により、いつの日かまた、パンデミックが人類を襲って来るであろう。

一方で、このパンデミックによって、科学技術の進歩が凄まじいことも実感できた。mRNA ワクチンがこんなに早く実用化されようとは、ほとんどの人が考えていなかったであろう。コロナウ



イルス感染症に有効な薬の開発も目白押しである。

日経サイエンス 2021年9月号緊急解説「人を襲うカビ 真菌感染症」という記事を読んで恐ろしくなった。重症のコロナ患者は *Aspergillus* や

Mucor、*Candida auris* などの真菌に感染しやすくなる。抗真菌薬に耐性を持つ真菌も徐々に現れている。コロナが収束しても真菌感染症、新型インフルエンザ、多剤耐性の細菌感染症の脅威が迫っている。次のパンデミックにも、人類が英知を集めて立ち向かい、解決することを心から願うのである。

ありふれた疾患も考察を深めると、実は理解していないことに気がつくことがある。本特集では、「かぜ」というコモンな疾患のさまざまな病型、診療の基本、他疾患(コロナ、インフルエンザ、敗血症)との見分け方を、最前線で活躍する臨床医に解説していただいた。さらに高齢者や子ども、妊婦など、バックグラウンドの違いによって起こる症状の違い、漢方薬を使った治療などが解説され、大変読みごたえのある内容となっている。



Our main business is not to see what lies dimly at a distance but to do what lies clearly at hand.

私たちの大切な仕事は、遠くのほうにかすかに存在するものを見ようとするのではなく、目の前にはっきり見えるものをきちんと実行することだ [Thomas Carlyle (1795-1881)].

